

## 兵庫県地域創生戦略 第4回企画委員会 議事要旨

日 時：令和6年12月19日(木) 10:00～12:00

場 所：兵庫県庁3号館7階参与員室

議事要旨：

### ○県事務局

本日は、第三期兵庫県地域創生戦略の案について議論を行いたい。また、策定した後のフォローアップや広報についてもご議論いただく。

### ○委員

まず資料1は第三期地域創生戦略の概要及び策定の考え方について。資料2は戦略本体の案となる。それでは事務局から説明をお願いします。

### ○県事務局

それでは資料1について説明する。

まず、2ページ目だが、下部に今回の計画の性格的なことを記載している。これまでの地域創生戦略は平成27年が第一期、令和2年が第二期で5年ごとに策定をしている。今回は令和7年度から11年度の5年を期間とする第三期地域創生戦略を策定する。また、国の「まち・ひと・しごと創生法」に基づく県版総合戦略で、国の交付金の要件となっている。

更に、県の条例に基づき、議決を必要とする計画となることから、2月県議会に上程し、県議会の議決を経て策定という流れとなる。

今回の戦略については、3つほど特色が出せたと思っている。1つは基本理念について、第二期戦略の理念を普遍的なものとして踏襲しているが、今回は、委員の皆様から頂いた「縁」や「共創」というワードを踏まえ、「地域や人をつなぐ「縁」を生み出し、共創の取組を五国に拡げる」という副題を追加した。

2つ目に、8つの方向性としての新たな整理を行ったこと。例えば「多様な学び」や「居場所と役割」については、特に各委員から詳しくご意見など頂いた。それから「寛容性」についてもこれから重要になるかと思う。「安心して暮らし続けられる地域を創る」に関しては、人口が減っても、住み続けられる地域をどう作っていくかに焦点を当てている。

3つ目に、戦略推進プロジェクトを設定した。これも各委員から提案頂いたものを、なるべく盛り込ませて頂いた。これら6つのプロジェクトを、戦略を牽引する取組として掲げて進めて参りたい。

4ページ目以降は、戦略の内容を記載している。3つの柱の1つ目、「自分らしく生きられる社会の創出」について、右側01、02、03辺り、自分らしく生きたいという若い人が多く、自分のやりたいことを実現できる環境にある人は、幸福度が高い傾向にある。また、自分のやりたいことが実現できている人には、幸福度の低い人は少ないことを示している。それから、産業界が学生に期待する力としては、主体性や課題設定・解決力、文理を超えた教養が求められている。07は「寛容性への評価と地域満足度」について記載している。

20代、30代の県内の若者千人程度から回答を得ており、地域への寛容性が高いという評価をしている人は、自分の地域の満足度が高いといったような結果も出ている。

取組の方向性については、1つ目は「多様な学びや働き方が叶う社会を創る」として、質の高い教育環境の提供やリスクリングの推進、ワークライフバランスの実現等に取り組む。2つ目は「居場所と役割を創る」として、ひきこもり対策の強化や不登校対策、支援を必要とする若者へのサポート強化等に取り組む。3つ目は「寛容性を広げる」として、具体的に行政としてどう取り組んでいくのか難しいところではあるが、まずは既存の取組の中で、ユニバーサル社会を作ることや、多様性と包摂性を重視する企業をひとつでも増やしていくことからスタートし、そしてその地域全体における県民の意識において、寛容性を意識したような暮らしや、考え方が広まっていけばいいと思っている。

5ページ目は、2つ目の柱の「五国に広がる可能性の追及」について、01番は観光志向の変化ということで、個人の価値観や志向が重視されると、地域での交流や触れ合いを求める人が増えること等を紹介している。また、各地の地域活性化の取組事例についても、豊岡演劇祭や淡路の「おっ玉葱」といった施設の事例等を紹介している。これらは地域創生の交付金を使った事業となる。それから県内への移住者が、地域でいろいろな取組をして活性化に大きく貢献している取組も紹介している。

取組の方向性については、1つ目は「ひとの動きを生み出す」であり、移住対策や観光交流人口の拡大、関係人口の拡大等に取り組む。2つ目は、「地域の固有性を磨く」とし、万博後も見据えたフィールドパビリオンの取組や水素、有機農業等の兵庫の強みを生かした産業、スポーツ・文化・芸術等により、にぎわいづくりに取り組む。3つ目は「経済活力を創出する」であり、若者の働く場の創出や学生と企業のマッチング、農林水産業の振興にも取り組む。

6ページ目は、3つ目の柱の「暮らしの持続性の確保」について、人口が減少し、地域の偏在化や持続性に懸念があるデータとして、食料品店へのアクセス困難者を記載し、多自然地域を中心に、そういう方が増えていることが示されている。

取組の方向性については、1つ目は「人・自然・文化を次代につなぐ」であり、出会い・結婚・出産・子育ての自然増の取組を引き続き推進していく。また、生物多様性の保全や資源循環、自然と共生する地域づくり等の環境関係の取組を盛り込んでいる。さらには、ふるさとの景観や食文化、祭りといった地域ならではの資産の継承も、地域を次の世代につなぐ中では重要な要素と考えている。2つ目は「安心して暮らし続けられる地域を創る」であり、交通インフラや医療・介護・教育等の生活機能の維持に向けた取組や、集落機能を維持するための地域運営組織の設置・機能強化に向けた支援、ハード・ソフトを含めた防災減災対策、防犯対策といった取組を進めていく。

7ページ目は戦略推進プロジェクトの概要となる。6つのプロジェクトを掲げて取組を進めていく。1つ目は「若者・Z世代応援プロジェクト」であり、これは今年度から県として特に重点的に進めている「若者・Z世代応援パッケージ」をベースにしながら、内容についてさらに追加できるものは追加していく。2つ目は「ひとりじゃないプロジェクト」であり、孤独・孤立対策をできることから取り組んでいく内容となる。3つ目が「外国人「第二のふるさと」プロジェクト」であり、人口減少する中で、地域の担い手や企業の人手不足といった面

では、外国人の力は今後大きくなっていくと考えられる。そういった外国人と日本人の県民も、同様に安心して暮らしていける地域づくりを進める取組となる。4つ目が「五国の“ナリワイ”育みプロジェクト」であり、地場産業、起業について支援していきたい。5つ目は「ひょうご五国豊穰プロジェクト」であり、これは単に農業の生産の部分だけではなく、その後の流通や消費の部分も含めて、トータルで「農」を核とした、地域の振興、産業の振興を目指す取組となる。6つ目が「五国のご縁(五縁)プロジェクト」であり、今回の戦略の特徴的な取組になると考えている。地域創生の枠組みが始まって10年が経過するが、県内で様々な取組が生まれてきている。それを県内の各地に広げていくことが、今後の地域創生において重要になると思うため、それに資する出会いや交流の場を作り、県内各地に広げていく取組を進めていきたい。

8ページ目は将来人口の推計である。今回は戦略の取組を進めていくうえで、2070年に380万人という目標を掲げたい。それから指標・評価だが、今回は客観指標に加えて、幸せや豊かさの度合を図る主観指標をバランスよく取り入れながら設定したい。指標は全体として200程度の設定を検討していきたい。資料1の説明は以上である。

#### ○委員

いくつか論点に分けて意見交換をしたい。1つ目は、2ページの戦略の全体像、並びに3ページから5ページまで、戦略を構成する柱や方向性について、これらに対するご意見を伺いたい。

#### ○委員

3つの柱の1つ目の、3番目「寛容性を広げる」は非常に大事だと感じているが、なかなか取組としては難しい。本当に根幹のところ働きかけないといけないと感じている。

何か具体的にプロジェクトの中に、きっちりハマるものがどれなのか見ていたが、あまり見られないなと思った。あと、指標の方にもハマるものはないのかもしれないが、どれが指標なのかと考えた時、どういう取組があるのかお聞きしたい。

もう一つはこれも指標のところ、多様な学びに関連するところだと思うが、指標の2番の「居場所と役割を創る」箇所の8番目の指標に引っかかっている、これを見るしかないのかなと思いつつ、不登校児童生徒を見ていくと、学校に行くことがベースに見えてしまうと思う。学校に行かなくても生き生きと自分でやりたいことをしている子供たちが私の周りにも多くいて、指標としてここを出してしまうことのインパクトが気になる。

#### ○県事務局

寛容性についてはプロジェクトにするのであれば、例えば、一定施策が固まって、ある程度ボリュームにして、それをまとめて打ち出すというのが何となくプロジェクトの感じであるが、個別の事業としては、色々あって、例えばベーシックな話でいくと差別や偏見をなくすための取組などである。今検討を進めているのはSNSの誹謗中傷を何とか抑止できないかというような条例であるが、そういった取組が考えられる。

戦略本文では、資料2の35ページあたりが「寛容性を広げる」取組となる。切り口としては、1つは外国人の方との共生、それから社会的包摂ということで、偏見や差別の解消、もう一つは、性別の役割分担意識、固定的役割分担意識、アンコンシャスバイアスも含めてであるが、そういったものの解消を、例えば企業や教育の中で、地道な啓発や意識の普及といったことを進めていくことが取組の内容になるかと思う。

#### ○県事務局

不登校児童生徒に関する指標については、ご指摘の通りで、これをそのまま指標とすることに問題があるかと思う。指標の修正を検討する。

#### ○委員

全体として優しさが感じられる表現が多いと思う。教育の視点に絞って言うと、先ほど不登校の問題が出たが、私は学校教育を担っている立場であるので、1番のところ、グローバルや特色づくり、或いは経済的負担の軽減のようなものが盛り込まれていて、2番・3番で、これから学校教育として取り組むべき課題を、社会全体として考えていく意味で、不登校となり学校に「行けない」ことが問題ではなく、そこから社会と分断されてしまうことが問題かと思う。それを社会全体で支えていく視点では、ここにも要素に入れていただき、教育が社会とを分断しないという視点で良いような感じもした。同じ視点で言うと外国人児童生徒も急増しており、ここも分断しやすい分野である。その点についても、教育委員会という大きな柱もあるが、それをもっと大きな視点で、3つの分野で社会の中に入れて頂けたため、非常に「教育」が広がりを見せたと個人的には感じたところ。

#### ○委員

「居場所と役割」について、意見を反映して頂きありがたい。以前の議論でも「こういう観点が地域創生戦略の中に入ってくるのは非常に珍しい」との発言もあったが、この部分は個人的に大事だと思っており、その要素を入れ込んでいただき嬉しいと思っている。

2つの質問がある。1つは先ほど指標の話があったが「居場所と役割を創る」箇所の指標で、ゆたかさ指標等を活用することになっている。しかし、実際に居場所の数に関する指標も入れられないのかと思った。神戸市は居場所の数の数字を出しているが、多様な人たちの居場所の数などについて、もし市町が出しているのであれば、それが非常に分かりやすいかと思う。少なくとも子ども食堂や子どもの居場所は県で出されていると思う。全国子ども食堂支援センターの「むすびえ」が全国の箇所数調査を毎年実施しており、どれだけ子ども食堂の数が増加しているのか都道府県ごとに出ているため、おそらく兵庫県もどこか把握されているのではないかと思う。この役割を創るところで箇所数みたいなものを1つ指標に入れ込めないか検討いただきたい。

もう1つは、7ページ目に、戦略推進プロジェクトの概要ということでプロジェクトを挙げていただいている。予算編成はこれから検討ということだと思うが、恐らく色々な既存事業も組み合わせながらプロジェクト化されていると思うため、ここの濃淡がここでは少し分かりにくいと思っている。県でも様々な新規事業などを検討されていると思うが、

今の段階で、方向性としてこの辺りは新しい取組を考えているということも含めた、濃淡がわかれば教えていただきたい。

○委員

居場所の数の話はいいなと思ったが、居場所認定みたいなことをしていくという手もあるのか。

○委員

認定は難しい。神戸市が大体であるが、高齢者など結局居場所は分野横断的になってしまうので、施策が跨っていくというのもあって難しい。

市町ごとに出していて、この居場所と役割が兵庫県独特の戦略の要素であるならば、そこまでやってもいいのかなと思った。

○委員

施策の中身の話を今後充実していこうと思うのでご意見として伺う。あとは既存と新規事業が分かりにくいというのはその通りであるがおそらく、今後出てくる資料の中で、これは新規事業だというマークが入ってくるはずである。

○県事務局

居場所の数であるが、こども食堂や子どもを対象にしたものとか、あとは例えば高齢者だったら通いの場みたいなものは市町ごとに把握している話は聞いたことがあるが、全体として、こども食堂とかいくつかカテゴリーがあってそれぞれ把握されているものなのか。

○委員

補助金施策などがあればかなり把握されていると思う。神戸市以外の他の市町は分からない。一番難しいのは民間で補助金をもらわずに実施しているところが把握されにくいこと。市町に差があるとは思いますが、それでもある程度把握されているのではと思う。

少なくとも高齢者とか子どもとかだけでもいいと思うが、それを足した数とかでもいいかなと思う。ちょっと目安で数字が分かればなど。その上で、良い意味で競争原理が働けば。県内市町のそのようなデータを把握することも、広域自治体の1つの意義とも思う。

○委員

「ひょうご五国豊穰プロジェクト」について、やはり県では多種多様な素晴らしい農産物が多いと思っている。それがなかなか日の目を見ることができず、販売に繋がらないなど、各所であると思う。それをどう発掘し、作り手の人は作るだけではなく、売り手は、ただ単に売るだけではなく、それをどう繋げ、作ったものをどう広げていくかも重要。往々にして、生産者の人たちも一生懸命作ることによって終わってしまうため、それをどう広げていくのかに対する仕組み作りが大事だと思う。作り手、売り手も「食」だけの分野で輪を

広げていくのではなく、例えば「食と観光」など越境した形で、さらに可能性を拓けていく、そういうところがリアルにできればと思う。

よく他の地方で、立派な風呂敷は広げるが、結果、プレイヤーがいない場合や、リーダーシップが発揮できないなど、内向的に消化していくことが見受けられる。結果、上面のハリボテみたいな形になり、尻すぼみになることも見てきた。やはり兵庫県は五国といった、豊かな環境、「食」も環境がいいと思う。それを今回のこのプロジェクトの中で、よりよい広がりを作るために、繋がりやすい輪を作っていたきたい。

#### ○委員

やはり具体的なプロジェクトに落とし込む、実施計画に落とし込むことは、その具体的なイメージと解像度を上げることだと思うが、そこが大事という話だと思う。

あと、これは都市と多自然地域は補完関係にあることを見える化できないかと思っている。都市の方々は、多自然地域からの食料品をかなり食しているなど、そういうものを見える化できるとより良い気がする。五国だから、淡路島の玉ねぎをどれだけ食しているかなど。そういうものを見える化できると、より淡路島の人に対してリスペクトが増えるような気がする。そこの繋がりも何か出てくるのではと思う。

#### ○委員

色々とデータを出しているが、何かわかりやすく目玉となるような数字があってもいいのではと思った。このデータが紙面上だけにあるのではなく、例えば兵庫県が、日本の中で一番の数字がある、一番を目指す数字がある等、そういうものがあると、一丸となり、結果が出やすいのではと思う。

#### ○委員

データについて、他府県等と比較できるランキングのようなものがあっても面白い。

それに関連して、現状が確認できるホームページやダッシュボードを作ってもいいかもしれない。つまり、現状と目標を示し、こういう形で取り組んでいると、ホームページで常に見せるような形にするなど。そういった地域創生ダッシュボードのようなものを作ってもいいかもしれない。

#### ○県事務局

私の分野である生物多様性の保全について、再生や活用などのポジティブな話もあるため、この辺りを本文に盛り込んでいただきたい。また、戦略推進プロジェクトについて、これらは相互に関係していると思う。例えば観光であれば、他の取組とも連動できるかと思うので、その横の繋がりも含めて取り組んでいく書きぶりになれば良いかと思う。

あとは、都市と多自然地域の相互関係のところでの地域創生は、まさに国の第5次環境基本計画に地域循環共生圏という概念が大きく提唱され、それが先般の第6次環境基本計画にも書き込まれている。これは3.11の東日本大地震の影響もあり、それぞれ自律分散型の社会を作る考え方。相互に強みがあるため、相互互恵関係のようなことかと思う。そう

いう形で、新しい地域社会を作っていこうとのことなので、その概念についても、参考のうえで反映できればと思う。

○委員

頂いたご意見について事務局で工夫し、盛り込めるよう検討したい。

○県事務局

芸術文化が今は地域の固有性の箇所に入っているが、「寛容性を広げる」の箇所に入れてもいいと感じた。

芸術文化は多様な価値観があるが、想像力を育むことや、共感性を高めるなど寛容性を高めるといった客観的な調査もある。バランスもあるかと思うが、そちらの方に位置付けて取組を進める方法もあるのかと思う。

県は特に震災からの復興以降、個々の部分に力を入れて取り組んでいる。ビジョンに掲げられているといったような位置付けもあると思うので、今回の目玉として、それを進めていくのであれば、そのような整理もあり得るのではと思った。

○県事務局

取組方針が複数の方向性にまたがることはあり得ることなので、本文の中で「再掲」などの表現で整理できないか、検討したい。

○委員

次の論点指標についてご意見を伺う。先ほどの不登校児童・生徒数については、私も削除の方がいいかと思う。先ほどの居場所の数を、不登校児童・生徒数の代わりに入れてもいいかもしれない。

○県事務局

居場所の数に関する指標は確かにあると良いと思う。今回の資料に記載している指標は主なものであり、全体としては200程度の指標を設定しようと検討している。

○県事務局

委員の皆様非常に有意義なご意見いただき、バランスよくまとめることができたと思っている。

1つのポイントは、委員の皆様が言われた「縁」。これまで10年間取り組んできた地域創生の目標は人口維持や出生数を上げる等となるが、その部分は、決して成果が出てきているわけではない。ただ、色々な成功事例と呼べるもの、力を持った取組みたいなことが県内各地で出てきていると感じた。これからそういったものを繋いでいくことが大切だと感じ、基本理念の副題に盛り込んだ。

あと、光の部分と影の部分、その両面を意識した戦略になったと感じている。3つの柱のうち「自分らしく生きられる」のように、県では現在若者支援をはじめ、望む暮らしや働

き方ができる県を目指す、そのような施策を前端的に打ち出している。その根底にあるのは「自由」ということだと思う。「自由」を前面に打ち出すとどうしても、取り残される人がおり、社会的孤立が増えることは事実だと思っている。

そこは課題としてあったところで、今回、この企画委員会で居場所や役割、関与するなどのキーワードを、委員から発言頂き、この自分らしく生きられるという社会の中に、自由でありながらも、そういう社会的孤立を防ぐメッセージがこの中に込められたというのは良い戦略ではないのかと感じている。

また、「暮らしの持続性」の要素を全面的に打ち出した。割と今までの地域創生戦略は、成長産業を起こすなど、どちらかという光をより強くするような方向性を前面に出してきた。それは当然、今回の戦略でも出していくが、一方で、いかに人口が減っても暮らし続けられる地域を作ることについて、今回意識して打ち出した。特に多自然地域を主なターゲットにして、そこをしっかりと取り組んでいくというメッセージを打ち出したことは、今までにない戦略なのではないのかと感じている。

また、そういう意味で全体として委員のご意見のおかげで、今までどちらかという、やや偏りがある戦略の印象だったが、非常にバランスの取れた戦略になっているのではないかと考えている。

#### ○委員

次に資料3について。戦略の効果的な運用及び広報方法について議論したい。資料の説明をお願いします。

#### ○県事務局

戦略を策定した後、これをどう推進していくか、或いは皆さんに知っていただくか、共有できるか、という部分の話となる。概要を記載しているが、外部の方の意見を取り入れながら改善を図る、といったようなことで、この戦略の実効性を高めていく。

これらの取組は、県だけでなく、市町や関係団体、さらには県民の皆さまとも連携し、一丸となって推進していくことが重要である。そのため、フォローアップ委員会の設置と、効果的な広報の実施を検討している。

まず、フォローアップ委員会については、取組の内容をより良いものにするためのブラッシュアップや、進捗状況の把握を目的として設置したいと考えている。

また、戦略推進プロジェクトは6つのプロジェクトで構成されており、それぞれの事業には所管部局が設けられている。例えば「ひょうご五国豊穰プロジェクト」については農林水産部の事業が中心となって進めるが、「五国のご縁(五縁)プロジェクト」のように多岐にわたる内容を含むものについては、計画課が所管し、取組の進行を見守ることが適切と考える。

このように、全体的な管理が必要なものを整理することが重要であり、フォローアップ委員会では、特に幅広い分野にまたがるプロジェクトについて、委員のご意見を伺いながら進めていくことを想定している。



そのため、例えば「ひとりじゃないプロジェクト」と「五国のご縁(五縁)プロジェクト」の2つを対象に、委員の参画頂きながらフォローアップを行うことを、一つの案として考えている。

広報については、SNSを活用した情報発信はもちろんのこと、PRイベントや移住関連イベントなどの対面の機会を活用し、地域創生の取組を広く発信していく。加えて、取組に賛同し、実際に行動を起こしてくださる方々(プレイヤー)を増やしていくことも、行ってまいりたい。

#### ○委員

まず1つ目のフォローアップ委員会からご意見頂きたい。特に戦略推進プロジェクトの実効性を担保し、成長させていくためのものだが、機能するフォローアップ委員会を実施していきたいと私は考えている。

6つのプロジェクトについて、原案は、すべてのプロジェクトをフォローする想定であった。しかし、それでは多分機能しないだろうと。各部局が所管してもある程度動きそうなプロジェクトは、ある程度は任せておき、組織の縦割りの問題があり、機能しなさそうなところを、我々で見えていき、ある程度の成功体験を積んで他のところに行くことが、私の提案となっている。

#### ○委員

フォーカスして見ていくところは非常に賛成で、多岐にわたるものについて、フォローアップしていくことで他のフォーカスしなかったものへの影響も考慮できるかと思う。そのため、多岐にわたるものを幾つかピックアップし、フォローアップする方向には賛成する。

#### ○委員

例えば「ひょうご五国豊穡プロジェクト」や交流について、県内いくつかの地域連携型というものは、特に県全域で異なると思う。例えば、同じ施策でも都市部と多自然地域で起こるような場合があると思うが、その時県は広いこともあり都市部の進め方と多自然地域の進め方で違ったりするのではないかと思う。運用が横断型なことと、それから都市部と多自然地域で、同じ取組をした結果など、その辺を見ていきたいと思った。

#### ○委員

県民局を活かさないといけないと思っている。あと、県民局と市町との連携も重視しながら、その辺りは動かさないといけないと思っている。

#### ○委員

組織の壁や分断されているところで、何らかの障害ができる限りないように、円滑に1つの目的に進み、広がるように考えて頂けた。素晴らしいと思うので、積極的に取り組んで頂きたい。

### ○委員

同じく2つ程度に絞る方がよいかと思う。ただ、結局2つ程度に絞っても、目指すところは一緒になるかと思う。

どちらかのプロジェクトが達成されたら、他のプロジェクトも相互に作用すると思われるため、相互に作用していることも評価していけたらいいと思う。

例えば、「五国のご縁(五縁)プロジェクト」を推進すると、結果として「ひとりじゃないプロジェクト」の推進にも繋がるかと思う。

### ○委員

事務局との協議では、「ひとりじゃないプロジェクト」と、「五国のご縁(五縁)プロジェクト」は、今の県庁の体制では弱いところだと思う。その2つをきっちり推進するというところに、フォローアップ委員会を注力するのがベターかと思う。

### ○県事務局

冒頭に、「自分事」と記載されており、良いと思っている。さらに、最近の自分の中のキーワードは、これを発展させて「みんな事」というキーワードがある。

やはり詳細を決めすぎないことが非常に重要で、皆で議論しながら、その議論に汗をかいた人は、必ず行動して頂けるところが経験上ある。大きな方向性だけで良く、むしろ、詳細は色々な人を巻き込み決めていくそのプロセス自体が重要だと思う。

あと戦略は完成して、それでフォローアップという名前だと思うが、実際にできてからがスタートになる。私のイメージだとフォローアップよりは実行委員会や実装委員会など、そういった形になるとこれから巻き込んでいく方たちにとっては、納得できる感じになるかと思う。

### ○委員

確かに名称は考えた方がよいかもしれない。「実行」の方が「フォローアップ」に比べ、より前向きに取り組んでいるように感じる。実行委員会等への名称変更について検討する。コミットメントしていただくことは重要だと感じている。フォローアップ委員会だが、企画委員会の委員にお願いする前提で話を進めているが、まだ承諾はいただけてない。事務局から委員就任の打診があると思うので、よければお願いしたい。

### ○県事務局

資料の中で、「意見共有やプロジェクトの評価検証を行い内容の改善を検討」と記載しているが、この委員会の議論を踏まえて、県庁の中の組織体制のあり方も、何らか示唆できるような議論ができるといいかと思っている。

現在の県庁の体制の中では、実施していくのは難しいというところがあれば、そういう部分を、この委員会の議論の中で明らかにしていき、それを体制の面にも、反映していくことは必要だと感じている。

### ○県事務局

フォローアップ委員会の名称を変更することについて、実行委員会等の方がより前向きな姿勢が出るかと思うため、検討したい。

頂いたご意見のように、県庁組織内の連携を深めるという意味で、その意識を変えられたらいいなど感じている。「ひとりじゃないプロジェクト」や「五国のご縁(五縁)プロジェクト」については、なかなか所管部局が定まらないような部分のため、これをきっかけに、県庁の体制・職員の意識を変えていきたいと思っている。そこはプロジェクトを進めながら、各部の職員を巻き込んでいきたい。

### ○委員

次の論点だが、広報の展開について。結構大事だと思っている。地域創生戦略と言われても、おそらく普通の県民はほとんど知らないと思っている。なので、広報展開が重要なため、ご意見を頂きたい。

### ○委員

広報戦略は大事だと思っている。特に「自分事」というキーワードを考えると、非常に大事だと考えている。無関心層への情報発信だが、非常に難しいと思う一方で、非常に重要だと感じている。どのようなターゲット層を考えているのか教えていただきたい。

あと若い世代の方たちは知らないだけで、聞くと興味を持ち、学生を巻き込むことで、そこから親世代や更に上の世代へ広がっていく可能性も高いのではと考えている。学校を巻き込んだ広報展開はどのように考えているか。

### ○県事務局

全世代がターゲットとなるが、やはり若い方と現役世代にこそ、意識して欲しいと考えている。そういう人たちに届かせることが本当難しい。それで、先ほど発言された箇所にヒントがあると思っている。学校を通じた取組は30～50代の親世代にも届くかと思う。これまでも出前講座として、ひょうごのビジョンや戦略について大学や高校等への広報を、一定実施しているため、その部分に力を入れて、保護者に届くようなメッセージもその中で入れられたら、波及が期待できるかと思っている。

### ○委員

聞くだけではなく、参加した、自分の意見が取り入れられた体験は若い世代は、印象に残り、そういうことが口コミで広がっていくのではと思う。広報にとどまらないかもしれないが、そういった体験は効果的ではないかと感じた。

### ○県事務局

出前講座について、大人数のときは一方的に話すケースが多いが、クラスごとに実施する場合、班ごとにワークショップを取り入れている。そういうケースだと、意外と深く読み込んで、自分なりに地域をこうしたい、将来こうなりたいみたいなことを、その場で発

表すると、結構この理解が進むケースが見られる。そういったことを地道に、本庁だけでなく県民局も含め取り組むと、自分事として捉え、考えるきっかけに繋がるのではないかと考えている。

#### ○委員

例えばこども企画委員会のような形で、学校以外の場所を実施するのはどうか。一部でも実施してみて、そこから学校に広がり、その子達が先生たちと一緒に考えてくれる機会にもなる。そういった形の巻き込み方も面白いのではと感じた。

#### ○委員

やはり周知するだけではなく、参画いただくことは重要だと思うので、仕組みづくりについてイメージが欲しい。高校生用のプログラムや、大学生用のプログラムなど。解像度の高いイメージが欲しいところ。

こども企画委員会について、実施する場合、実行可能性や、そこで何をするかまで落とし込みたい。高校や大学のカリキュラムが多く入っている中で、どこまでその取組を実施できるか考えないといけない。

#### ○委員

先ほど発言あったように、高校生は意外と忙しい。どの学校も、あらゆるところからいろんなパンフレットやリーフレットが届き、情報が溢れてしまっている。その中で選ばれるだけのインパクトがないといけない。市町からもお誘いがあり、土日がほとんどない高校生がいることも事実。そこを何とか一本化できれば良いと感じている。ただ、本当に実現できれば素晴らしいことだし、第1回、第2回の委員会で、私もお伝えしたが、コーディネートしてくれるような、身近なロールモデルの方と実際に会って話をする機会が、実は思ったほどない。それを優先するような形で持っていくにはどうすればいいのか、現場も含めて考えていきたい。第1回の議論の中で、わくわくするような言葉でリーフレットやポスターを作ったらどうかと提案があった。五国の漫画が出たときは、斬新で面白いなど感じたので、それらの活用で若い世代も参加したくなるのではと思う。

どこかで、各所から来るものを整理して、一本化、二本化できるようになれば、今以上に高校生、現場も参加しやすいのではと感じている。

#### ○委員

先ほどの話で、いくつかのパターンに落とし込むことを言われていたが、例えば2時間でこういうワークショップができる等、イメージしやすい事例があれば、県立高校をはじめ、私立高校でも探究授業のようなものを取り入れる学校が出てきていると思うため、取り入れられるハードルが下がると思う。プログラム自体は求められている部分もあり、探究ということにも非常に相性が良いと思うので、そこを深堀できたらいいと考えている。

### ○委員

できるだけ堅い印象を、良い意味でゆるい感じに移行できればと考えている。県民一人一人が参画している意識を持ってもらうために、簡単に、県民の方がお国自慢でき、いいところを発信できるようなコミュニティがあればよいと感じている。青森県が「青森びいき」というコミュニティを立ち上げている。ああいった、もっとゆるく、県民一人一人が、美味しいものやいい景色などのお国自慢を発信できるコミュニティサイトがあればどうかと考えている。

### ○委員

第三期兵庫県地域創生戦略というタイトルをやめたほうがいいかもしれない。公的な文書上ではこれでいいが、タイトルを見て何か読もうと思えない。「青森びいき」がいいなと感じたが、「兵庫自慢」などわかりやすいサブタイトルをつけて、公的な文書は「兵庫県地域創生戦略」でいいが、世に出す際には違う名前でもいいのではと感じた。

### ○委員

先に質問だが、指標の目標が「前年度を上回る」という項目が多く見受けられたが、自分の会社であれば、前年度を上回るといった数値目標は立てない。広報戦略も簡単ではないので、SNSを運用すれば上手くいくものでもない。

先にそういった広報活動があり、それを地道に人が動いて、色々な方法で努力をしないと広報活動はうまくいかない。そういうときに、数値目標がないと、県や市町の方も、県民の方も動いてくれるのか、疑問に感じた。

強化する目標があった方が広報的にも波及すると思うため、強化する目標があると分かりやすく、動きやすいのではと感じた。

あと先ほどの話題にもあったが、学生は就活や大学受験等で、大学や高校で何に取り組んできたのか聞かれることが多い。学生たちがその時に何かしないといけないと思っているときがあり、子ども委員会などの、県が実施しているプロジェクトに参加した経験は、自分の人生を考えることになり、県政にも興味が出て、結果として受験や就活にも役立つとなると、参加する学生も増えるのではないかと感じた。

### ○委員

今の学生は就活が早まっており、大学3年生の夏ぐらいから就活が始まっている。内定は早めに取りすが、4年生の6月まで就活している学生もいるため、ほぼ1年間就活している。どんなことに取り組んできたか聞かれるが、大学2年生の間に何かしないと、アピールできなくなってしまう。もう4年間がほとんど機能しなくなっている。

地域創生戦略で、例えば、こども企画委員会を学生が企画運営するのはいいかもしれない。何かテーマがあり、みんなにコミットしてもらった感じで、何か企画できるといいと思うし、色々な大学の学生が集まる形の方が、より楽しくなるのではと考えている。

### ○県事務局

広報が生きてこないと言計画が無いのと同じになってしまう。やはり広報戦略として、この実行委員会の中で柱として立てて実施していくことがポイントになるし、私自身は広報でも名前はいいと思うが、これは巻き込み戦略だと思っている。いかに当事者になってもらい、実行してもらうかがポイントとなる。資料では、移住セミナー等のイベントにおける情報発信とあるが、発信だけでなく、もう巻き込みで、既存のイベントと連携することも必要。そうすればハードルも下がると思うし、戦略自体かなり幅広いので、イベントの内容とどこか重複しているかと思う。そこをクローズアップして、関心事項から興味を持ってもらい、こんな戦略も出ていると、そういった形で巻き込んでいくこともいいのではと感じた。

### ○委員

実効あるものにするには、既存のイベントとどう連携し活かしていくかが重要となる。

### ○県事務局

広報の目的を考えたときに、「自分事」「みんな事」にしていくことが狙いだと思っている。そう考えたときに、この地域創生戦略の、内容自体を知ってもらうよりは、地域のことを意識して、考えて自分ができることを、実施できる主体を作っていくことが目的だと思う。戦略自体を皆に知ってもらい、共感を高めることは、あまり期待できないと思っている。むしろ、例えば「このお米、美味しい。」というところから、「どういう人が作っているのだろう」など、五感に訴えるような感覚をどれだけ提供できるかも必要になるかと思う。

取組項目の中で、そのポジションづくりをしっかりと意識し、舞台を作って、広げていくことが戦略の一環だと思う。

### ○委員

広報は、目標の設定が困難な分野であって、手段も何となくあるが、本当にその目標に対して達成できるかどうかの見積もりがよくわからない世界。

お金をかければいい話でもない。民間の経営だったら、お客に来てもらうために広報をかける。この世界は民間ではないので、一体何のために実施するか、結構曖昧な世界。

戦略は作っていく必要があるが、何のために広報を実施するのかを最初に掲げないと、単に広報するだけなら手間と金が奪われるだけなので、そこは気をつけないといけない。

### ○県事務局

まず、委員長が言われたように、副題の作り方や、媒体においても漫画を使用するなど、確かにそういったものは必要だし、インターネット等にアップしていかないといけない。リーフレット等も作っていかないといけないので、そのあたり工夫したい。

私も先ほどの意見に同感で、この戦略を「知ってもらうだけ」には意味がないと思っている。抽象的なことを教えられたり、聞いたりしても面白みがない。「自分事」として巻き込もうとするなら、確かにワークショップは有効だが、戦略全般の内容で実施するのではな

く、例えば、多自然地域、限界集落の現状・課題を説明し、解像度を上げていき、その上でワークショップを実施するのであれば、意味があるかと思う。しかし、戦略全般の説明をした後にワークショップを実施しても、参加者には響かないだろうと思っている。なのでワークショップの実施自体は必要だが、やり方の工夫は必要と思う。

#### ○委員

地域創生戦略を周知しないと駄目だと思ったが、確かに本来の目的はこの地域創生戦略の中身を浸透させることであり、別にこの地域創生戦略を周知しなくても、そちらが充実するのであれば、この戦略は成功となる。

ロールモデルとの出会いは重要だと思っており、例えば「地域創生戦略部隊」みたいなものを作り、地域創生に資する人材をピックアップし、講演してもらうなど。これは地域創生戦略の枠組みで実施していることは一言だけ添えて、そういった取組を行う方が面白いかもしれない。地域創生戦略の中身の話をする場合、ロールモデルに話をしてもらって、こういう人生を歩んできた、実はこの地域にはこんな可能性がある等、具体的な話を知ってもらう方が、良いかもしれない。

#### ○委員

ロールモデルの人が講演し、そのあと県職員が地域創生戦略の兼ね合いを話す方が面白く、まとまりがあるかと思う。

#### ○委員

6つの戦略推進プロジェクトごとに、人選してもいいかもしれない。その人達を派遣し、ひょうご五国豊穰プロジェクトだと「食」の話を中心にしてもらうなど。

#### ○委員

今の高校生だと、外資系の企業に就職するには東京・大阪に行かないといけないイメージしかないと思う。しかし、兵庫県にも、そういう企業があると知ってもらうだけでも、兵庫県で就職しようと思うことがあるかもしれない。

#### ○委員

外資系コンサルの知り合いに聞くと、年間2回ぐらいしか会社に出社しない。それくらい、働き方によってはほぼオンラインで完結する仕事も出てきている。でもそういうことが、なかなか学生に伝わっていないことは間違いない。

広報戦略の話だが、戦略を周知するだけでは意味がなく、実効性のあるところで、実施する方がいいのではないかとこのことで、先ほど出てきた、学校ごとにプログラムを作り、開発することはいいと思う。高校生、中学生向けのワークショップは、どういう人を送り込むかの方が大切ではないかと思う。そこで戦略の説明をするよりは、ロールモデルの方に講演していただくほうがいいかなと感じている。学校の先生も、ただ行政の方等が来て説明するというよりは、この人だと呼びたいなと思えるのではないか。

#### ○県事務局

ひょうごビジョン 2050 の冊子について、ビジョンの内容は抽象的だが、そのビジョンに沿って、それを体現しているような生き方の人たちを紹介している。だから、まさにこれを現地で行う。そういうものを、広報の中で展開していくイメージだと思っている。

#### ○委員

そういう意味も含めての広報戦略を考えていきたい。

戦略自体は始まってしまいが、その前に広報の戦略を検討するべきではないか。

#### ○県事務局

一旦は事務局で案を作成する。このフォローアップ委員会を、いつ立ち上げるか検討しているが、可能なら年度内にその事前協議会となるような場を設けられたらと考えている。その際に、事務局の原案を示して、意見を頂き、ブラッシュアップし、新年度から具体的に実施していく、そのような流れを想定している。

#### ○県事務局

先ほどの「指標目標の前年度を上回る」が多いのではないかという指摘について、この「前年度を上回る」目標は、県民意識調査の項目にのみ設定している。例えば「多様な働き方を選択しやすい社会だと思ふ人の割合」が、今 22.7%だが、これを何%にするのが正解なのかが難しい。100%を目指す目標であれば、それは一番誰もが納得するが、どこに目標を設定するか難しいので、一步一步少しずつ社会を変えていく趣旨の設定にはなっている。ただ一方で、ゴールがないので、取り組む意味や意義など、そういう部分に対しての、目標のインパクトが弱いことはご指摘の通り。

#### ○委員

私の会社で抽象的な目標を設定することもあるが、目標がないと、何をしたらいいのか、難しくなる。先ほど例に挙げていた、「多様な働き方を選択しやすい社会だと思ふ人の割合」の 22%について、率直に少ないと思う。これを例えば、少なくとも半分の県民がそう思えるようにしたい、高い目標だが、50%にするといった内容を目玉の指標にするといった打ち出し方もあるかと思う。単年度で達成できるとは、誰もが思わないかもしれないが、これを目指していくといった強いメッセージは出せるかと思う。

#### ○委員

主観的指標については、コントロールが難しいと行政が考えている。なので、恐らく「前年度を上回る」といった設定しかできない。確かにターゲットを決めないと、管理できないのではとの指摘もその通りだが、そこまでのインパクトを与えることが難しいと行政側が考えている。現行の地域創生戦略は主に客観指標が大半であったが、今回の戦略では主観指標も加えて生活満足度等の傾向を探ろうと、初めての試みとして入れた。現状はこの状態で設定したいと思う。



○委員

県内観光消費額について、令和5年の実績は1兆5677億円だが、目標は1兆4500億円となっている。現状より目標が下がるというのはどういうことか。

○県事務局

「ひょうご新観光戦略」の目標値が、1兆4500億円(令和11年)となっている。令和5年はコロナが明け、一時的な特需があったので、非常に高い数字となっている。この数字には特需の要素が入っており、目標としてはふさわしくないと考えている。「ひょうご新観光戦略」を策定する際も委員会を設置し協議した上で、令和11年に1兆4500億円を目指すというプランをもとに施策を展開しているため、地域創生戦略でもそういった事情を踏まえ、1兆4500億円という目標を設定している。

○委員

外国人の延べ宿泊客数の令和11年目標値が、令和5年実績の約3倍と設定している。なのに、経済観光消費額の令和11年目標値を令和5年実績値より下げて設定するロジックはよくわからない。

○委員

年間のインバウンド数について、兵庫県は、大阪府や京都府と比べて少ない。外国人の延べ宿泊者数を令和5年実績の3倍に、県が設定するロジックを教えてください。

○県事務局

インバウンド数について大阪府、京都府に比べて、兵庫県は少ないことは以前からの課題。今日のお話も踏まえ、また、検討、調整したい。

○委員

「ひょうご新観光戦略」の目標値を引用して設定している。外国人延べ宿泊者数の目標値が増えているのに、観光消費額の目標値が落ちていることについて、気にはなるところはある。神戸空港も国際化するため、その要素も考えないといけないかもしれない。

○県事務局

資料2の25ページにオブザーバーという記載があるが、一般的には観察者や専門家という意味合いで使われているかと思う。皆が当事者だという意識を醸成していかないといけないことを踏まえると、観察者というのは、その言葉としてはなじまないと思っている。こういう有識者や専門家、実務家の方々も、エキスパートとして、当事者として関わってもらうような意識で臨んでいただくのが望ましいのではと思っている。

○県事務局

ご指摘を踏まえ、表現方法を検討する。

○委員

それでは、今年度の企画委員会はこれで最後の予定となるので、一言ずつお言葉を。

○委員

私にとって、この企画委員会は非常に有意義な時間だった。各所のプロフェッショナルの方が集まり、地域創生戦略を作る場自体が非常に貴重だった。でき上がった戦略も素晴らしいものになったと思う。今後も、戦略推進プロジェクトの推進に関わるかもしれないが、そこもモチベーション高く、それこそ自分事にここ数ヶ月は委員として臨んだので、ぜひこれからもお力になればと思う。

○委員

この委員会に出て、広い視野を持つことができた。それと同時に、こういうようなことを1人でも多くの子供たちに、どこかの段階で体験させてあげることが、これからの兵庫をつくっていくために必要だと実感した。兵庫県はさらに良くなっていくと確信している。これからも自分事として、ともに頑張っていきたいと思っている。

○委員

非常に勉強になり、参加させていただいてよかったと感じている。

最初、この委員への就任依頼が来た際、地域創生の私の中のイメージは出生率を上げるや地場産業の活性化、観光というようなイメージだったため、私の分野でお役に立てることがあるのかなと思っていた。

だが、1回目の会議で「社会的弱者の方に関する視点や切り口が欠けているように感じたので、その辺また次回以降に議論したい」といった発言を聞いて、私もこの委員会に居ていいのかもと感じた覚えがある。

そこから幅広い形で議論ができて、さらに自分も勉強になる場に参加させていただいたことがよかったと思っている。戦略推進プロジェクトに関わることになれば、またそれも楽しみにしていきたい。

○委員

ここでご縁のあった皆様の本当に真摯な姿勢に感動し、委員会の内容も勉強となり、大げさかもしれないが、自分自身にとって良いきっかけになった。

県職員の方に、まっすぐに今あることを進めていこうとする思いを聞かせていただき、私も良い県を作っていきたいと思った。

○委員

私自身、本当に勉強になった。同じ目標に対して、普段であればお会いすることのない、違う分野の方のご意見を聞ける機会は、私にとってもいい経験となった。こういう場がたくさんあれば、兵庫県がより良くなると実感した。

#### ○県事務局

私は事務局の視点でも、意見させていただいた。引き続き皆様と一緒に進めていけたらと思っている。

やはり行政計画ではあるが、私自身、「官民連携」というよりは「民官連携」だと思っており、やはり県民が主役であり、行政はしっかりサポートしていくことが役割。そういう新しい民官連携のスタートに、地域創生戦略がなるといいなと思っている。実行・実装するからこそその戦略だと思うので、引き続き皆さんと一緒に汗かいていきたいと思う。

#### ○県事務局

今年度の企画委員会の議論は充実しており、実り豊かなものだった。この4月から政策コーディネーターの形で関わっているが、皆さんのこういった知恵や経験を持ち寄り議論できたことで、兵庫県県政も希望があると感じている。12月26日に、地域創生戦略会議があるため、そちらの方でしっかりと委員長から報告を受けて良い取りまとめができるように、頑張りたいと思っている。また、現場の方で、1プレイヤーとして、皆さんの議論が報われるように、動いていきたいと思っている。

#### ○委員

私は現行の地域創生戦略の策定に関わっていたが、前回より良いものができたのではと思っている。前は人口問題への解決や、経済戦略的要素が強かったが、今回は居場所・役割・寛容性など、かなり特色のある戦略になったと思う。

委員について、前回の企画委員会は大学の先生がほとんどを占めていた。今回は地域で活躍されている方に多く関わっていただき、当事者になっていただく方針はよかったと思う。

私の専門は税制や財政だが、今回の戦略に関わり、幸福に関する勉強をした。自分自身の勉強にもなり、よかったと思っている。

これからの人口減少で市町の力がかなり弱くなる可能性がある。なので、都道府県の機能はとても重視されていく社会に入っていくため、県民局と市町の連携や、民間と行政の連携をどう接続するのか、重要かと思っている。

#### ○県事務局

委員の皆様本当にありがとうございました。